

第4回 成瀬ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場

－ 議事概要 －

- 開催日時 平成24年9月21日（金）10:00～12:00
- 場所 秋田河川国道事務所 2F 大会議室
- 出席者
 - 構成員 秋田県知事、秋田市長、横手市長、湯沢市建設課長（市長代理）、大仙市長、羽後町副町長（町長代理）、東成瀬村長
 - 検討主体 東北地方整備局長、河川部長、秋田河川国道事務所長、湯沢河川国道事務所長

● 討議概要

1. 検証に係る検討の進め方

意見なし

2. 事業等の点検について

意見なし

3. パブリックコメントで頂いたご意見に対する検討主体の考え方について

意見なし

4. 利水参画者等から頂いたご意見について

意見なし

5. パブリックコメントを踏まえた治水、新規利水、流水の正常な機能の維持対策案の概略評価について

- ・新波地区の治水対策案で、河道を直線で結ぶ案が高額になることについて金額等を提示していただきたい。

6. 治水、新規利水、流水の正常な機能の維持対策案の評価軸ごとの評価及び総合評価（案）について

- ・成瀬ダム案で地域振興の評価があるが、現在、東成瀬村として成瀬ダム関係の地域振興策を検討しているところ。ダム事業が進まず少しストップしている状況であり、計画の進捗を図っていただきたい。

- ・赤滝について、現状を詳細に記録し資料により保存するとのことだが、今後、東成瀬村と具体的に詰める必要がある。赤滝神社は現存しており、単に資料により確認するだけでは、神社を守ってきた方々に対する姿勢として説得力に欠けると思うので、よく調整をしながら具体化していただきたい。
- ・今年、玉川が猛烈な渇水。玉川ダムを活用する対策案は、水害は別にして、水利用については、今年のような渇水の際は全く役に立たないということになるか。論理的には確率と統計の問題だが、利水について玉川ダム（の貯水）がない今の状況では（玉川ダムを活用する対策案は）（ダムの貯水が）なくなると捉えて良いのか。
- ・感覚論だが、気象状況が極端になっているということは、極端に雨が降らない状況になる場合、逆に大雨になる場合もある。日本全体、九州の例を見てもそう感じる。個々のダム論ではなく全体の論理からすると、貯水あるいは洪水調節機能、利水機能も含めたダムという装置が、ある程度一定水準あった方が無いよりはよく、そういう意味では気象状況の流れからして、調節機能がきちっとあるということが、秋田県全体の様々な形のセーフティーネットが増えると感じる。気象学も含めた総合科学の面からどうなのか。

7. 総合的な評価（案）について

- ・1年間の期間があったが、パブリックコメント等々に対して検証し、評価を出された訳であるが、それらについては適切だと感じている。また、治水、利水、流水の正常な機能の維持それぞれの目的別においても適切に評価されており、総合評価も適切だと思う。
- ・異常気象が続いている中、渇水やゲリラ豪雨もあり、それに対して調節機能が多いのはダムだと思っている。コスト的、期間的にも優位なのはダムということであり、是非とも早期着工を進めていただきたい。
- ・だいぶ時間がかかった感じがするが、我々が考えていた結論とほぼ同じである。
- ・問題は、これから国土交通省サイドでオーソライズするのがいつ頃になるのか。また、その後のタイムスパンはどうなっていくのか。スピード感をもって進めてもらいたい。

- ・ダム建設構想が持ち上がった時は、今年のような渇水は想定していなかったような気がする。想定外という言葉が流行っている時代ではあるが、そのような中で改めてダムを建設することにより、地域における様々な水の活かし方が有効になると確信している。
- ・だいぶ時間もかかって、体系的、網羅的に検討されているが、この検証にかかった時間・エネルギーは随分もったいないと感じた。
- ・成瀬ダムを建設するのが妥当だという検証の結果は、全く同感である。順調に進むことを強く望む。
- ・水源地の村としてダム事業に積極的に関わってきた。検証作業には心から敬意を表する。
- ・パブリックコメントで出された対策等についても、詳しく資料を提示して総合評価をしているわけであり、その評価について全面的に賛意を表す。地元として流域の方々が安全に、しかも水を利用して、それから災害を未然に防止するという対策を出来るだけ早くとっていただくことを期待したい。
- ・現在、（事業が）中断している状況であり、村の中のダムに寄せる気持ちが薄れるということを大変心配している。できるだけ早い着工に向けて今後のスケジュール、所定の手続きを進めていただきたい。

(平成 24 年 10 月 1 日 事務局とりまとめ)